

押上駅 × 糸高生

糸魚川高校生徒による探究活動プロジェクト

令和3年3月に開業した「えちご押上ひすい海岸駅」(以下、押上駅)の利活用と周辺地域の活性化策について、糸魚川高校2年生6人が夏休みの4日間を使い、探究活動を行いました。

参加
生徒



DAY 1 チーム作りとプロジェクトの目的を考える

青木 小雪さん * 磯野 実央さん * 加藤 一汰さん * 齋藤 あやめさん * 原 凜花さん * 見辺 桜さん

DAY 1 7月25日

本当の意味でチームになるには…

「糸魚川高校から押上駅までの帰り道をもっとおもしろくしよう」というプロジェクトが開始。プロジェクトに参加した6人は、2グループに分かれ、簡単なゲームを使い、チームで動くことの難しさ、楽しさについて学びました。

DAY 2 8月1日

地域を知り、おもしろい帰り道を考える

押上区の方との意見交換や周辺の地域活性化の取組、押上駅設立までの経過などについて学びました。

高校から押上駅までの普段歩いている帰り道を検証、どうすればおもしろくできるのか…区の方と一緒にワークショップを行いました。

DAY 3 8月4日

自分の考えを伝え、相手の心を動かす極意を学ぶ

提案発表会に向け、プレゼンテーションの講師として株式会社MOVED代表取締役 渋谷雄大さんをお招きし、自分たちが考えていることを相手に伝える、そして相手の心を動かすプレゼンの極意について学びました。夢中になりすぎて、ほとんど休憩なしでがんばった3回目の活動でした。

活動を通しての想い

青木 小雪さん

4日間を通して自分の思ったこと考えたことを人に伝えることの難しさと自分の考えたことが伝わる、理解してもらえらる嬉しさを感じることができた。今日のプレゼンを通して自分はまだまだ伝える力が足りないと思った。これからもっと自分の考えていることを伝える力をつけて、自信をもって人に伝えられるようになりたい。

磯野 実央さん

このプロジェクトの最初に自分の意見を毎回持つという目標を立てた。今回は達成できたと思う。今までは誰かが言った意見にそうだねと共感するだけ、賛同するだけだったが、自分の意見を持つことで、他の意見と異なることもあったが、そこから話し合いができるということが、とても楽しかった。自分の意見を持つようにしようという良い機会になった。

加藤 一汰さん

自分たちがやりたい・作りたいことを思っているだけではだめで、どうせやるなら実現できるまでやろうと、高校魅力化コーディネーター森さんから言ってもらい、4日間取り組んできた。今日の発表では、完璧なくらい完成度の高いものをやりたいなと思っていたが、まだまだだなという部分があって、悔しい気持ちがある。高校生の意見に耳を傾けてくれる大人がたくさんいて嬉しかった。高校生もできることがあるならたくさんやっていきたい。今回、糸魚川市や自分の住んでいる所がもっともっと良くなればいいなと感じられた4日間だった。